



「居場所」にこだわって

こころとそだちのクリニックむすびめ 院長 田中康雄

僕の記憶では札幌に児童専門の精神科医療機関、静療院が開設したのが 1973 年、緑ヶ丘病院の児童部門の開設はそれから 10 年後の 1983 年である。

僕が精神科医になったのが、その 1983 年。新米の僕は、精神科外来で、学校に行きたくない、行きたいけれど行けない、という子どもたちと出会いはじめた。

旭川では、適応指導教室のパイロット的な取り組みがはじまり、僕が診ていた子どもたちも何人か、通ったりした。結局、僕が子どもの精神科臨床をしたいと思って、道立緑ヶ丘病院に入職したのが 1992 年、それから 4、5 年後、僕は児童部門を担当した。

フリースクール自由が丘学園の活動は 1993 年に始まったという。おそらくその前にしばらくの準備期間があったと思われる。自由が丘学園の創始者たちと子どもの精神科臨床をはじめた僕とは、ほぼ同じ頃から、同じような痛みと悩みを抱えた子どもたちとその家族と出会っていたのであろう。

25 年を迎えた自由が丘学園は、子どもの居場所にこだわり運営し続け、今回奨学金制度を作ろうとクラウドファンディングをはじめた。いただいたチラシに掲載された子どもたちの写真は、漫画ワンピース最大のクライマックスと僕が勝手に評価している、アラバスタ編の仲間の印を示した場面を彷彿する(漫画は左腕を上げるんだけど..)。

自由が丘学園が 25 年こだわってきたのは、この仲間を作り続ける「居場所」であったのかと、勝手に想像している。

今回のクラウドファンディングは、さらに居場所を見つけにくい子どもたちのための動きであろう。

居場所をなくしてはいけない。居場所は多様に拡散していく。より行きやすい居場所づくりに、自由が丘学園はこだわり続けている。